

地元密着型の子育てを これからも 支えていきたい

お母さんの困りごとの
ひとつ一つの物語が一番大切



なかはし えみこ
特定非営利活動法人
わははネット
理事長

中橋 恵美子氏

略歴 平成10年、子どもとの遊びを中心とした育児サークルから、子育て支援のための情報発信を目的とした育児サークル「わはは(輪母)net」を仲間と呼び掛け旗揚げ。翌11年に子育て情報誌「おやこDEわはは」を発行。平成15年には親子のいこいの広場事業を始める。また、携帯電話を利用した子育て情報配信サービス「わははメール」事業をスタートし、翌16年には「子育て応援タクシー」事業を実施する。また、平成21年経済産業省のソーシャルビジネス55選にも選出される。ニッポン子育て応援団メンバー、文部科学省中央教育審議会臨時委員等を歴任。

特定非営利活動法人わははネット

平成10年地元香川県で中橋氏が子育てサークル「輪母(わはは)ネット」を設立。翌11年に香川県初の地域密着型子育て情報誌「おやこDEわはは」創刊。法人格取得後、親子のひろば(現:地域子育て支援拠点)を商店街の一角でスタートし現在3拠点運営。平成16年には子育てタクシー発案、全国に普及。同年スタートした携帯電話を使った子育て情報発信のシステムも全国に広がる。現在16名の雇用スタッフは全員女性。子育て・女性・まちづくり支援をしている。



年表

20歳
建設会社就職

25歳
つくば市にて、結婚・出産

29歳
子育てサークル輪母(わはは)ネットを設立し、地域密着型子育て情報誌「おやこDEわはは」発行。その後、広場事業、情報配信事業を展開する

33歳
わははネットに改称し、特定非営利活動法人の認証取得

35歳
子育てタクシー事業の立ち上げ

41歳
平成19年度(第4回)女性のチャレンジ賞受賞

43歳
経済産業省ソーシャルビジネス55選に選出

45歳
厚生労働省ポジティブアクション展開委託事業を受託



子どもがいたからこそ、今の私がある。発想の転換が大事。

私は、事業を行っている香川県の生まれ育ちなのですが、夫の仕事の関係で茨城のつくば市で、初めての子育てをしてきた時に、実はとてもショックなことに気づきました。子どもが生まれると、もちろん子どもは可愛いし、一緒にいると嬉しいことはかりなのですが、その一方、子どもがいるとどうしても、あれも出来ない、これも出来ない、出来ないことが増えてしまったことがとても悲しかったのです。その後、ほどなくして家族で地元に戻りました。そこで出会ったママ友達と、子どもが生まれたことで当時、出来ないと感じていたことをどうすれば出来るようになるだろうとみんなで話しているうちに、子どもや旦那さんのためだけでなく、お母さんが自分らしく生きるためにみんなで活動しようと、ある意味、勢いで子育てサークルを立ち上げることになりました。普通の主婦だった私が、気がつけば子育て支援、お母さん支援の事業を展開しているのです。今の姿は、当時は想像もつきませんでした。これもひとえに、子どもがいたからであり、子どもがいてもこれまで以上に何事も出来るようにと考えて、行動してきたからにほかなりません。何事も発想の転換というか、見方を変えることがとても大事だと思えます。

今は、社会的起業とか、ソーシャルビジネスやコミュニティビジネスが注目を浴びてますし、そのような流れで私たちがは、事業主婦の集まりでしたが、そこに、働くお母さんからお手紙をいただきました。今で言うところの育児保育のケースなのですが、子どもが病気になる、職場や保育所をはじめとして多くのところに頭を下げなければいけない。子育てをしているのになんで、こんな後ろめたい気持ちになるんだろう。それがやりきれないと切々と訴えていました。「この人を助けない」「きつとこんな風に悩んでいる人はたくさんいるに違いない」と感じ、それならこのことを「香川県で一番偉い(!?)人に相談しよう」と思ったんです。そこで、情報誌の第二号に香川県知事インタビューを企画して、この手紙を読んでもらおうと考えました。今思えば、本当に無茶だなと思うのですが、何も知らない主婦がいきなり県庁に電話して「知事に会わせて下さい」と。秘書の方も困惑して「どんな業界の方ですか?」と聞くので、私は「お母さん業界です」と真面目に答えました。その後、紆余曲折ありましたが、当時の県知事にインタビューとお手紙を読んでもらう機会をいただき、このこともきっかけとなり香川県で初めて育児保育のサービスが展開されることになりました。本当に、嬉しかったですね。案外、社会って私たちでも変えられるんだと思いました。今で言うところの政策提言が、偶然出てしまったんです。

その後、妊娠中や乳児連れでのタクシー利用で苦労したという話を聞き、平成16年に、子育てにやさしい「子育てタクシー」の企画書を作り、地元タク

この分野で出会う方々には、社会を変えたい、社会はこうあるべきと思うので行動している人も多くいると思うのですが、私自身は、そこまで社会を強く意識しているというより、本当に困っている一人ひとりのお母さんを助けて、支えたいという気持ちが一番のエネルギーですね。そして、その困っているお母さんたちの物語は、私の体験でもあるのです。

子育て情報誌の第一号を発行してみると、とても多くのお母さんからお手紙や連絡をいただきました。当時、私

このお母さんを助けて! というリアルな物語が行動のエネルギー

この分野で出会う方々には、社会を変えたい、社会はこうあるべきと思うので行動している人も多くいると思うのですが、私自身は、そこまで社会を強く意識しているというより、本当に困っている一人ひとりのお母さんを助けて、支えたいという気持ちが一番のエネルギーですね。そして、その困っているお母さんたちの物語は、私の体験でもあるのです。

子育て情報誌の第一号を発行してみると、とても多くのお母さんからお手紙や連絡をいただきました。当時、私

居酒屋わはは?をやりたい

現在も、立ち上げ当時と事業の柱は変わりません。でも、事業規模は本当に大きくなりました。乳幼児を対象とした、子育て情報誌(年6回)と子育てひろば事業、メールを中心とした情報発信事業の3つが今も基本です。それに加えて、最近では、ポジティブアクションの展開事業やワークライフバランス推進のための事業などに関わらせていただいています。私たちの強みは、地元密着で、かつ子育て中のお母さんの気持ちが一番わかっていることだと思っています。香川県では、まだまだ必要とされている事業だと思えますので、この3本柱をしっかりと運営しながら、新しい事業を展開して行きたいと考えています。

実は、私の夢は「居酒屋わはは」をやりたいんです。わははネットを通じて出会う、行政や企業の人をはじめ多くの人も、いろいろ悩んだり、愚痴をこぼしたかったり。そんなことを私はいろいろ聞いてあげたい。でも、タダではいやなので、居酒屋で時間を過ごす中で、そんな役回りが楽しいかなと思っています。

(文・船木成記)